

2026年1月30日

各 位

株式会社 紀陽銀行

大阪芸術大学との産学連携プロジェクトの実施について

株式会社紀陽銀行（頭取：原口 裕之）は、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取り組みの一環として、2020年度より大阪芸術大学（学校法人塚本学院 所在地：大阪府南河内郡 理事長：塚本 邦彦）と学生のデザイン力やアイデアを活かして地域の魅力を発信し、賑わいを創出する取り組みを行うとともに、学生に実践の場を提供することで社会での活躍をお手伝いする産学連携プロジェクトを実施しています。

2025年度はデザイン学科の授業内課題として、社内誌の表紙イラストのデザイン、なんばスクエアで放映するデジタルサイネージ画像のデザインおよび地域商社ロカリリストの商品「GINGER LOCAWINE」のパッケージデザインを学生から募集し、この度最優秀作品5作品を決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連携の経緯

当行は「銀行をこえる銀行」をめざし、銀行という枠にとらわれないさまざまな地域活性化事業に取り組んでいます。一方、大阪芸術大学は、建学の精神にもとづき、芸術における狭義の創造性にとどまらず、科学技術・産業・交通・通信・政治・行政・その他社会活動全般にわたり創造性を推奨し、柔軟に広義の創造性を発揮できる人材の育成に力を入れています。

2. 概要

連携学科	デザイン学科・グラフィックデザインコース
プロジェクト名称 (制作課題)	<p>①紀陽銀行社内誌の表紙イラストの制作 テーマ：夏号「和歌山の夏、行ってみたいイベント」 冬号「干支」（未年）</p> <p>②なんばスクエア（※）のデジタルサイネージ画像の制作 テーマ：「地域商社ロカリリストの想い」</p> <p>③地域商社ロカリリストの商品「GINGER LOCAWINE」パッケージデザインの制作 テーマ：「色彩や構図を通じて“和歌山らしさ”を感じさせるような抽象的なデザイン」 (①、②、③の中からそれぞれ最優秀賞を決定)</p>
プロジェクト期間	2025年10月～2026年1月

(※) なんばスクエアは、当行と地域商社ロカリリストが連携し、2021年6月24日に「地域との価値共創拠点」とリニューアルした当行営業拠点であり、ロカリリストが和歌山県の特産品の販売やプロモーションをおこなうことで、地域活性化に取り組んでいます。デジタルサイネージは、なんばスクエア前に設置しています。(所在地：南海なんば駅2階 中央改札口外)

3. 最優秀賞

(1) 紀陽銀行社内誌の表紙イラストのデザイン

最優秀賞を受賞したデザインは、2026年度の夏号（第202号）、冬号（第203号）に採用予定です。

＜夏号：陰下 瑞生さん＞



＜冬号：岡本 彩里さん＞



(2) なんばスクエアのデジタルサイネージのデザイン

最優秀賞を受賞したデザインは、なんばスクエアのデジタルサイネージで放映予定です。

＜小島 仁湖さん＞

＜勝木 美佐紀さん＞



(3) 地域商社ロカリストの商品「GINGER LOCAWINE」のパッケージデザイン

最優秀賞を受賞したデザインは、地域商社ロカリストの商品「GINGER LOCAWINE」のパッケージデザインとなり販売予定です。

＜伊藤 暖記さん＞



4. 表彰式の様子



以 上

本取り組みは、S D G s（持続可能な開発目標）のゴール4「質の高い教育をみんなに」、ゴール17
「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる取り組みです。

